

特別
座談会

ニューヨーク大学に学ぶ歯科医師からのメッセージ

信頼性の高い インプラント治療



インプラント治療は、失われた歯の代わりに人工の歯根（インプラント）を埋め込み、その上に人工の歯を取り付ける治療法だ。歯科医院では衛生管理を徹底し、患者一人ひとりに合った丁寧なインプラント治療を心がけている。そこで、ニューヨーク大学（NYU）CDE（Continuing Dental Education）プログラムでインプラントをはじめとする先端治療を学ぶ歯科医師のみなさんにご参加いただき、渋谷歯科タナカの田中健久院長の司会で「信頼性の高いインプラント治療」をテーマに語っていただいた。



渋谷歯科タナカ

田中 健久 院長

ニューヨーク大学インプラントコース5期生

ニューヨーク大学の プログラムへの思い

田中健 まず、ニューヨーク大学（NYU）CDEプログラムに対する先生方の思いを語ってください。
林 NYUのプログラムには一度申し込んだのですが、日本人は誰もいなくて中止になりました。参加できたのは2004年に第1期がスタートしたときです。アメリカでどういう治療をしているのか、現状を知りたかったというのが参加の動機です。
菅井 私は歯周病専門医でしたので、当初20年ほど前、インプラント



日本大学松戸歯学部客員教授
医療法人社団 秀飛会 優ビル歯科医院

林 揚春 理事長

ニューヨーク大学インプラントコース1期生

治療は歯周治療のオプションの一つとして考え、実施してきました。インプラントが予知性の高い治療方法であるなら、歯周病に罹患し歯槽骨を失った予後が不明確な歯を削ってブリッジなどの補綴処置をすることなく、また健康な天然歯を削って不可逆的なダメージを加えることなく、しかも、そのインプラントに適切な咬合圧を負担させ、咬合機能の回復を図ることができれば、歯がない場所の治療はその部位だけにインプラントを埋入するだけで終わらせることができます。

しかし、インプラント治療はインプラントを埋入して終わりではなく、インプラントも天然歯と同じようにその周囲に歯周組織が存在するわけですから、ペリインプラント炎（インプラント周囲炎）に罹患しないとは限りません。その管理をどのように考え、実際にどのようなケアをしていけばそのリスクを可及的に軽減させ、より長期開口腔内で機能し、QOL（生活の質）の向上に寄与できるかを、イン

西川 最初はNYUまで行かなくても十分かなと思っていましたが、私が参加している歯科医師のための教育機関であるPGI（ブラクティカル・ナソロジー・インスティテュート）の勉強会の仲間がみんな行くようになったため、申し込むことにしました。いろいろな情報が入り乱れて日本に入ってくる中で、何が正しいかを知りたいという望みがありました。雑誌に登場するような先生が講師になり、話をじかに聞くことができるのが

ブランド先進国であるアメリカの、その中でもバイオニア的存在であったニューヨーク大学で実際の臨床を通して知れたかったです。深沢 このプログラムを推進しているケイト・マツモトさんとは、以前からの知り合いでした。第1回は、ペリオインプラントプログラムといって、ペリオが入っていました。2回目以降、ペリオがはずれてインプラントプログラムになりました。プログラムが終わったときは、卒業修了書をいただきました。



医療法人社団 菅井歯科医院
菅井 健二 理事長
ニューヨーク大学インプラントコース2期生

森岡 一番の理由は、林先生をはじめ日本のトップクラスの先生方が行っていることです。そうした違う次元を、直接行って見てみたいというのが大きかったと思います。NYUは、上を目指したいという人が集まるところで、お互いに刺激し合えるのではないかなどの期待もありました。選択肢とし

いいと思いました。福島 世界のトップレベルの講師陣による講義を20人という少人数で聴講できることと、世界のインプラント界をリードするNYUのリサーチデータをまっ先に読めるのが魅力でした。遠藤 確かに、いろいろな世界の有名な先生の話を聞くことができるのは魅力ですね。日本にいるとまだ聞きになり、フィルターがかかっている、どこまでが真実なのかかわかりづらいというのがあります。日本にいるよりはニューヨークのほうが楽しいというのも理由かな（笑）。

本場の先生に師事し 自分の「武器」をつくる

飯山 以前よりNYUのプログラムがあることは認識していたのですが、コスト面とプログラム期間がネックにあり、二の足を踏んでいる状態でした。しかし、自分の臨床を振り返り、それを勉強するために海外の先生方の考え方に引きつくことがわかりました。「この先生の治療を見てみたい」「あの先生の講義を受けてみたい」と考えているとNYUの講義に行きつき、いつの間にか申し込んでいたというのが現状でしょうか。田中宏 学生時代にUCLA（カリフォルニア州立大学）へインプラントを見学しに行つて、通常歯のないうところに人工歯根を埋めるインプラントの素晴らしさを知りました。このとき留学したかったのですが、開業をして資金的にめどがついてからかと思ひ、2008年にそのチャンスがめぐってきたわけです。国内の勉強会はある程度行つたことがあるので、海外の治療がどんなものか見てみたかったというのも理由です。



医療法人社団 真美会
銀座矯正歯科
深沢 真一 院長
ニューヨーク大学インプラントコース1期生

丹野 NYUに最初に行ったときは開業して1年目くらいだったので、これからの時代は予防とかインプラントをしっかりやらなければならないと思つていました。やるなら本場のものを体験したかったというのが理由です。吉見 さまざまな講習会やセミナーに参加しましたが、情報に違いがあったりして、誰を信じていいのかわからなくなりました。そのとき、できるだけ本場の先生の話を開こうと思ひました。歯科医師としての志がないから情報に惑わされるのであつて、それに負けなかつたという「武器」を作ろう



医療法人社団 西友会
西川歯科医院
西川 洋次 理事長
ニューヨーク大学インプラントコース5期生

田中健 NYUの魅力と体験して学んだことについて？林 自分の症例と米国の症例を比べてみると、医療保険制度の違いがあります。アメリカには、国民健康保険がないので、ほぼ自費診

と想つたわけです。佐藤 大学の後輩から紹介を受けたのですが、やはりターナー先生のインプラント科のプログラムを受けたかったのがきっかけです。村木 確かに、みなさんがおっしゃる通りに、充実した講師陣や講義自体の内容が魅力的だったと感じています。開業当初より、患者さんにとって本当によいものを提供したいという想ひがあつて、いろいろなものを吸収してきました。が、特にインプラントは国内ではまだ歴史が浅く、しっかりとした手技を身につけるには海外で学ぶ必要があると感じていました。そんな中でNYUは、最高のプログラムだったと思います。

NYUの魅力と 体験して学んだこと



西大津歯科医院

森岡 千尋 院長

ニューヨーク大学インプラントコース5期生

療です。医療ミスによる訴訟の多い国です。だから、過剰医療つまり、どうやって自分を守るかということとを考慮して治療計画を立てます。

ですから、神経のない歯は、破折する可能性があるために基本的に抜歯です。日本には国民健康保険制度があります。以前にUCLAの先生と話したときに、「歯をなぜ抜かないのか」といわれました。

40歳の女性で無菌歯を全部抜歯したのを見て然然としました。彼らは日本の健康保険制度を知らないで、なぜ歯を残すかがわからなかったようです。その治療方針の違いがすごく勉強になりました。

菅井 アメリカでは医療制度の違いもあり、抜歯のクライテリア（基準）が日本と全く違っていますよね。歯周病治療によって十分保存可能だと判断できるような歯でも、インプラントのための戦略的抜歯の名の下に安易に抜いてしまします。患者さんが何を求めているのかを頼って来ているかを考えると、安易に歯を抜くことは許されたいと思います。だから逆の意味で勉強

強になりました。戦略的抜歯を含め、抜歯の基準をどこに求めるかエビデンス（科学的根拠）を十分深める必要性を再確認しました。それと自分の歯に勝るものはないというのは真理であることも再確認しました。治療すればきちんと機能の回復が望める自分の歯を抜いて幸せになる人はいないといえるのではないのでしょうか。

西川 私が大学を卒業するとき、NYUのリンコウ先生のインプラント治療が注目されていました。インプラントは本来、患者さんに快適を与える一つの手段だと思っています。ただ、誰もがインプラ

ントに飛びつきますが、マネジメントが先にきて最終目標が後になる傾向があります。何でこの歯を抜くのかということも含めて、最終目標は快適な食事をしてもらうためであり、私たち歯科医師はそれを補助していかなければいけないと思っています。

森岡 日本のトップの先生がやっていることとNYUの講師の先生のもの比べてみると、日本の先生は上手だなと思います（笑）。それだけすごい先生が日本にはたくさんいます。

深沢 外国に行くのは、情報収集と雑誌とかビデオでしか見たことがない一線級の先生とのコンタクトに尽きます。日本ではなかなか会えない人たちと会えるのが一番です。10年ほど前、初めてNYUに行ったとき、日本ではインプラ

世界から集う人材と世界の一番を見る
飯山 感覚で治療しないことを強く学びました。治療は、過去の臨床や研究の成果であり、それに基づいて行うということを。そこに、経験などが存在はしますが、エビデンスからの治療を行うことの重要性を学ぶことができました。

村木 そうですね、多くの研究や症例数を誇るNYUのプログラムでは、感覚に頼らない、実績のあるテクニックを基礎理論から体系的に学ぶことができました。それにより、自分自身の中でのインプラントに対する信頼性がより確実なものになったと感じています。佐藤 このプログラムの一番の魅力は、なんといっても志の高い先生



いいやま歯科医院

飯山 浩靖 院長

ニューヨーク大学インプラントコース6期生

方と知り合うことができました。遠藤 私は林先生や他の先生に比べて知識も経験も浅いのですが、自分の中で目指していくもののコアとなるものを探するためにNYUに行きました。日本では味わえないようないろいろな国の風を受け、日本の保険制度とか、一本の歯の大切さを感じました。

林 ニューヨーク大学は、世界各地から学生が集まります。それぞれの国の考えの違いは興味深いです。また、同じ国でも西海岸の歯科治療に対しての対抗意識も相当なもの、これだけライバル意識があるのは、それなりに面白いと思いました。

田中宏 アメリカ人の日本人への感覚はベリ以来変わっていないと思っています（笑）。アメリカの中でも日本人の医師や歯科技工士が活躍しています。ただ、そこまですごく厳しい現実を感じました。NYUでは、各分野のスターデューグループのトップが集まって、討論しているように感じます。そう

いうのはいいですね。福島 日本にいて、NYUのリサーチによる文献を読むだけでは知るよしもない多くのことを、現地で直接講義を聞くことで臨床に直結する有効なエビデンスや技法を学ぶことができました。世界から集う人材と世界の一番を見る



えんどう歯科クリニック

遠藤 為成 院長

ニューヨーク大学インプラントコース4期生

した中で、自分の見識を広げられたのがメリットですね。

吉見 日本人はできていることに工夫を加えるのが上手ですが、何もないところからつくって、創造していくという部分では負けていると思っています。向こうは研究がしっかりできるといえる土壌があります。

丹野 世界に先駆けてインプラント科をつくったNYUで学びたいと思いました。NYUの先生方が書かれたインプラントの研究論文は多く、その人たちに直接話を聞くことができるのが素晴らしいと思います。そこで基礎の大切さを再認識できました。それからアメリカだけでなく中国やルーマニア、台湾など、さまざまな国や地域のインプラントを学ぶ機会を持てたこともよかったですね。

遠藤 確かにNYUプログラムでルーマニアや中国に行つて学べたことは大きいですね。

吉見 それからアメリカのいい部分としては、専門制が挙げられます。一生をかけて専門的な歯科医

療を追い求めることができます。

その道の一流の人は、私たちにはない何かがあります。ニューヨークは世界で一番のものが集まっています。それを見ることができてよかったです。

森岡 リー先生のような一線級の先生のオフィスを見学できたのもすごいですね。

吉見 ただ海外に出て行って勉強するといふのでなく、既成概念を崩そうという心意気を持って参加することが大事です。現状に満足することなく、上にいこうという意気が必要ですね。

**2年半にわたる
長期のプログラム**

田中健 NYUプログラムは、2年半にわたって現地に足を運ばないと取得できないプログラムです。

丹野 3日や1週間のコースだと、旅行気分で行って終わりのということにもなりかねません。今回のプログラムを通して、2年半という長い期間でしたが、海外の実状を把握しながら診療するということが

できました。日本と海外の歯科医療の差を実感できたのがよかったと思います。

田中宏 世界中から集まってくる人たちのレベルの高い先生が多いですね。

吉見 そういふすごい先生方はみな、試行錯誤しています。地道に研究し、基礎からやろうとしています。それがとても勉強になりました。

田中宏 それからリサーチ科というのがあります。あれは日本の発想にはない科ですね。文献だけリサーチして統計を出しています。新鮮でいいと思いました。

田中健 NYUでは先人観なくメーカークのインプラントの強度などを見ることができました。それがいいと思いました。

丹野 「日本で、これが最新」という情報が、実は8年前のリサーチだったということもあります。NYUではほんとうに最新のものを聞いてみて、日本の情報が遅れていることを認識しました。

森岡 薬事の壁があるのですが、NYUでは先進的なものの生の声を聞くことができるのが大きいですね。

田中宏 日本は技術を持っていきます。インプラントの原材料であるチタンの加工技術は世界一とも聞きます。そうした技術が流出し、海外から高価格のインプラントを買ったりしています。日本国民がメリットを享受できていないといえるのではないのでしょうか。

吉見 ベリーが来航したときから日本は後手後手にまわっています

よね(笑)。

丹野 日本の歯科医療は、アメリカから発信された情報をいち早くまねてやっている部分が少なくありません。これからは、日本から発信できるようにしなければいいですね。

遠藤 NYUで学ぶのは2年半という長いコースです。そこで学ばうとするためには、開業している先生たちの土台がしっかりしていないと学べません。なおかつ世界に羽ばたきたいと思っている先生ばかりです。帰ってきたときは、ひと回りもふた回りも大きくなっています。当院では、院長がいな

い間に、任されたスタッフも成長しています。チーム医療という意味で、素晴らしい伸びています。自分だけでなく、スタッフも信頼できる仲間になっているのが素晴らしいと思います。

**アメリカの大学と
日本の大学の違い**

田中健 日本の医療が良くないのは、大学に問題があると思っています。ほんとうは日本の大学が、

日本とアメリカの違いが何かというのを教えないといけません。ただ、現状はアメリカの大学は最先端ですが、日本の大学は最先端をいっていません。

森岡 インプラントに関しては、大学より開業医のほうが優れているという見方があります。大学では、なかなか臨床研究が根付いていません。私の同期が大学の教授になります。そうした連中が大学を変えていくことができればうれしいですね。

吉見 大学で臨床経験のあまりない先生に教えてもらうから、たとえば歯が抜ける理由がわからなかったりします。

森岡 NYUでは教えている先生も、学生の話や状況を聞いて、より内容を充実させようとしています。臨床プログラムがしっかりしています。

田中健 アメリカは、卒業するまでがむずかしいですね。臨床で大学院へ行くと、何千という論文を読んで仕上げるというわけじゃない。プログラムは日本の先を行っています。



医療法人社団 宝樹会
城東歯科クリニック

佐藤 弘樹 理事長

ニューヨーク大学インプラントコース5期生



村木デンタルオフィス
村木 宏 院長
ニューヨーク大学インプラントコース5期生

ます。海外と日本の差は、大学時代の教育プログラムもそうですが、卒業してからもしっかりフォローしているところにあるといっているでしょう。

信頼性の高いインプラントとは？

真剣に考えないといけないと思うきっかけがつかめました。

丹野 現状の日本の教育でインプラント治療をするのは不安だったため、NYUのインプラント科のような最新のところでプログラムを受けました。日本が危ないと思ったときに海外にわたってみたいと思ったわけです。坂本龍馬のように(笑)。

田中宏 歯医者は技術職だと思っています。うまくないとダメです。そのためには良い師匠と出会い、勉強する必要があります。アメリカには、そうした良い師匠がいま

す。実際に現地に行くと、自分の目で見なければ意味がありません。一緒に空気を吸わないと理解できないといえます。

丹野 テレビや雑誌で知るだけとは違いますね。

森岡 NYUに行ったことで、日本で足りないのは何か、マニキュアやシステムをどう構築するかを

手術回数を減らすことに頭を使いたいと思っています。このため、術前にカウンセリングの時間をたっぷりとり、レントゲン写真も30枚ほど撮ったりして術前に全部把握できるようにしています。

菅井 信頼性の高いインプラントとはインプラント治療終了後、長期間にわたり患者さんの口腔内で機能的・審美的要件を満たし、患者さんのQOLの向上に寄与できるインプラントだと思います。そのためには術前の正確な診断・診断が必須です。その結果を基に、最終目標のための具体的治療法の説明、必要なコストなどについても説明します。CT撮影を含め、十分な情報を患者さんに提供するわけですね。納得してもらえよう十分な情報を提供し、理解してもらえないと判断ができませんから。

丹野 患者さんには、世界の最新の情報を提供するようになっています。それはメリットだけでなく、デメリットについてもです。そうしたオープンな情報の提供が信頼性につながるのではないのでしょうか。インプラントについて最大限の勉強をして、最新の知識を覚えることが、患者さんの信頼感を高めることに繋がると思っています。

西川 インプラント治療では、情報は最大限に集めることが大切ですね。その上で、患者さんに合わせて情報を提供し、経済面なども考えてゴールを設定します。要は、その人にとって快適な位置はどこなのかを自分の能力の中で考慮す

ることです。そうしたゴールを設定した上で、インプラントは必要最低限の量にするというのをモットーにしています。

菅井 治療はシンプルにしたいですね。本当にこれが必要かを考えて判断することが大切です。

丹野 本当にインプラントが必要かどうか、客観的に考えるようにしています。治療には流行があるので、それに流されないよう自制心を持つことも大事です。

深沢 日本の歯科医師の中には、1日か2日のコースを学んでインプラント治療を行う者がいます。インプラントが折れて、患者さんからクレームがきたという話も聞きます。しっかりしたトレーニングを積まないと、インプラント治療はできません。そうした体系付けでインプラントの勉強をするのが大事だと思います。

福島 大切なのはエビデンスに基づく診療です。最新の治療方法や材料に関しては、必ず情報を押さえるようにしていますが、世界中の多くの先生により長期的で効

果的と検証された治療方法を提供するようにしています。

森岡 患者さんときちんと向き合わないといけないと思っています。大切なのは人と人との付き合いです。自分でやった治療は、最後まで自分で診ないとダメです。このため、患者さんが定期的に来院するため、環境づくりを心がけています。敷居が高いのではなく、気楽に来院いただければと思っています。

飯山 治療結果が良い場合、もしくは満足度が100点でなかった場合でも、どうしてそのような結果になったのかを、最新の情報やエビデンスに基づいて反省するようにはしています。また、日々勉強をすることにより、最新の情報の習得と、情報の選択ができるようになるに心がけています。すべての情報が正しいとは限らないですから。

村木 私は、信頼というものはやはり、一人ひとりの患者さんに対する向き合い、誠実に対応していくことの積み重ねからしか生まれないものだと思います。インプラント自体は一つの手段にす



ヒロデンタルクリニック
田中 宏幸 院長
ニューヨーク大学インプラントコース5期生



医療法人 ゆたか会
丹野歯科医院

丹野 努 院長

ニューヨーク大学インプラントコース5期生

きません。患者さんの幸せという
ゴールに向かって何をどう使うか
は一人ひとりの歯科医に委ねられ
ていますからね。だからこそしつ
かりとしたものを身につけ、提供
できるように、歯科医だけでなく
スタッフみんなが常に自分たちを
磨いていく姿勢をもっていること
が大切だと思っています。

佐藤 まずCT撮影を含め、患者
さんの全身状態から口腔内の状態
まで、患者さんときちんと情報を
共有し、一歩一歩治療を進めてい
くことです。

丹野 患者さんから見ると、イン
プラントは本当に大丈夫なのかと
いう意見もありますが、歯医者か
ら見ると、インプラントはすでに
成熟期に入っており、持つか持た
ないかの議論はすでになく、どう
やったらより早く、より正確にで
きるのかを議論する段階に入っ
ています。インプラント治療は、今
までの治療に比べて革新的に良い
情報を醵集しているのです、正しい
情報を伝えていきたいと思っています

吉見 インプラントの使い回し事

患者と歯科医師の
キヤッチボールが大事

田中健 これからどういった歯科治療を目指していきますか。

林 患者さんが信頼して治療が受

けられる環境を提供しています
インプラント治療や矯正治療など
患者さん自身に適した治療を通じて
患者さん一人ひとりが人生を楽

しめるよう、健康管理のお手伝いをします。治療を始める前に、現在の歯の状態と治療法を説明しますが、治療に際してわからないことがあれば、納得いくまで担当医師やスタッフに遠慮なくお尋ねいただけます。

菅井 現在、当院を受診される方の大多数が他の歯科医院などの医療機関から、あるいは来院患者の方からのご紹介です。この事実から、当院は地域社会における歯周病・インプラント治療の歯科医院

として、より高度なニーズに応えられていくと自負しています。そして、これらの医療体制や高度な技術をより多くの患者さんに提供

していけるよう、日々努力し続けることが、私たちの使命であると思っています。

西川 入れ歯やインプラント、被

せものといったものは、人間がつくったものですから、その患者さんの機能に合わせてミクロン単位までつくるといふのは、絶対に不可能です。だからこそ、基本となる「中心位」に患者さんのかみ合わせを誘導し、そこに、きちんとしたかみ合わせをつくるという咬合学の手法が必要になります。歯科医療の本来の目的は、むしろ歯のところにだけ治療をすることではなくて、快適なかみ合わせをつくること、ということだと、私は信じています。

医療に携わるかぎりには、医師が加害者になつてはいけなと自らを戒めながら、咬合学の観点から、患者さんのからだに適合した治療を行っていきます。

深沢 矯正歯科を得意とする歯科
医師でインプラント治療を行って

いくと思います。私はニューヨーク大学のプログラムでは初めての矯正の歯科医師として参加しました。今年のプログラム参加者を見ると、矯正の歯科医師が何人か入っており、インプラント治療を行う医師のすそ野が広がっていくでしょう。

福島 この8年間で、日本以外では7カ国・15都市でインプラント



医療法人社団
アップル歯科クリニック

吉見 哲朗 院長

ニューヨーク大学インプラントコース5期生

について学んできました。それをもとに、最新の設備や豊富な治療経験を生かしながら、信頼性の高いインプラントと生体材料によるインプラント治療の提供を目指していきます。インプラントに関することは、どんなことでも対応可能といつていいでしょう。

飯山 高級サロンのような優雅さ

RYOU」■人と人とのつながる
優しさが「いいやま歯科医院」の
コンセプトです。もちろん、CT
消毒機器、説明用機器などは最先
端のものをそろえています。あえ
て例えるならば、プロに徹してい
る、心置きなく任せられる家族の
中のお父さんの信頼でしょうか。

佐藤 城東歯科クリニックは、今

まで私がつくってきた医療法人の3つの病院の集大成としてつくった病院です。さらに、NYUで見学に行った5番街のデンタルオフィスやインブラントインストラクターとして訪れたドイツのインストラクターの先生方の病院や韓国の先進的な病院の設計、デザイン

なども参考にしました。医療設備もCTやCAD/CAMシステム、マイクロスコープ、レーザーなど現在の最新といわれているものはすべて備えたつもりです。この設備や機材をベースに、スタッフのおもてなしの気持ちを前面に、患者さんにゆとりと信頼を提供していければと考えています。

村木 菌に対してあきらめている

方に希望を与えられるような病院を目指し、常に新しい知識・技術を得ることを心がけていきたいですね。そして、そこにホスピタリティを加え、スタッフ一人ひとりが患者さんの豊かな人生のために、ともに歩んでいけるような医療が提供できればよいかなと願っています。

西川 やはり、患者さんへの愛で

しょうか(笑)。不満の顔で帰ってもらおうでなく、笑って「ありがとう」と感謝の気持ちで帰ってもらいたいですね。それに対して、自分もいいことをしたなというようなキャッチボールが大事だと思います。

取材／秋山晴康